

2010 秋～2011 夏群響ファンズ（群響を応援する県民の会）活動報告

I 活動方針

1. 群馬交響楽団のパートナーになろう！
2. 本拠地ホールの建設や海外公演の実現に協力しよう！
3. 群響サポーターとしてコンサートを盛り上げよう！
4. 群響をPRしていこう！
5. 群響楽員・OBと市民とで協力して会を運営していこう！

II 2010 秋～2011 夏の動き

ファンズ23年目の活動は仙台フィル支援募金除き特別な活動のない一年だった。

1. クリスマスパティー2010（2010年12月24日）
楽員とファンとの交流、ファンサービスの一環。2年ぶりに開催。
参加者300名。（日程調整の結果、避けたかったクリスマスイブ開催に）
楽員もファンも楽しんだ一夜。
2. 群響東京公演応援バスツアー（2011年3月27日）
東京すみだトリフォニーホールでの地方オーケストラフェスティバル
群響：震災直後の開演を決断、震災支援ポスター作製、追悼演奏から
始まる演奏会、楽員先頭に立ち義援金呼びかけ。
3. 群響ファンズシート（通年9回）
群響ファンのすそ野拡大を目的に
小学校4年生～高校生に毎回A席2席のシートを抽選でプレゼント
CMはせず細々とした働きかけ

4. 仙台フィル支援の募金活動 (2011年6月25日～)

群響の許可を得て群響定期演奏会で募金活動

しかし募金額は少々中たるみ状態

5. 本拠地ホール ー新たな動きー

2011年4月高崎市長交代。・・・ホールに関する方針は継承。

大きな一歩踏み出される。

2011年8月18日の高崎市長臨時記者会見

「高崎市の富岡賢治市長は18日、臨時記者会見を開き、群馬交響楽団の拠点となる新音楽ホールやコンベンション施設、体育館など複合機能を持った都市集客施設を、高崎駅東口の栄町駐車場周辺に整備する基本方針を発表した。計画区域内にあるビックカメラなどを共同事業者として民間資金も活用し、総事業費は500億円以上の大型プロジェクトとなる見込みだ。」(2011年8月19日読売新聞)

群響ファンズとしては、“余計な波風立てぬよう”今後の動きを注視していく方針。

※群響を応援する県民の会第2代会長平山典二が8月16日に逝去致しましたので報告します。

仙台フィルに対する中長期的な支援に関する提案

仙台フィルに対する長期的な支援が必要であることは、JOFC メンバーの等しく一致するところではあります。非番を始めとする各地のファンクラブは時間的にも経済的にも長期的に支援する余力がないのが実情です。この条件の中で、どのように長期的な支援を形あるものに出るかというのが私の発想の源です。仙台フィルに対する支援募金の緊急性は薄らぎました。そこで、現在群響ファンズが行っている募金活動の成果を長期的支援の一助として活用してもらえないかと考える次第です。その一例として、メモリアルシートとして定期演奏会の一席分を JOFC シートとして確保し、現在 SPC が行っている SPC シートとカップリングしてペアの招待券とするものです。一人よりも二人のほうが申込者の多様性も広がるのではないのでしょうか。そして、仙フィルは SPC を通じて全国の地方オーケストラのファンクラブからも支援されていること、そして各地のオーケストラが孤立しているのではないことを証する役割を果たしてくれるのではないのでしょうか。仙フィル定期の S 席の年間チケット代は 2 万 5 千円ですので、10 年間続けるとすれば 25 万円が必要です。5 年とすれば、12 万 5 千円の勘定になります。私達群響ファンズは 10 万円に達した段階で JOFC に寄託したいと思っています。そして、その後に行われる各地のファンクラブの支援金、あるいは JOFC 総会で行われるかもしれない募金を合わせていただき、JOFC 名義でメモリアルシートを購入していただき、運用を SPC にお任せしてペア招待席とするものです。金額に応じて支援年数は変わるかもしれませんが、これであればそれほど各ファンクラブの負担も大きくはないのではないかと思います。

以上、意を尽くせないと思いますが、私の考えです。